

2025年2月4日(火)
東京港のつどい

For Earth, For Life
Kubota



複数企業連携による東京港オフピーク輸送プロジェクト

株式会社クボタ
物流統括部 担当部長 武山Alex義知

社名

株式会社**クボタ**

創業

1890年

資本金

841億円

連結売上高

3兆0,207億円

連結従業員数

52,608名

グローバル展開

120カ国以上

海外売上比率

79%



本社

〒556-8601
大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号
TEL 06-6648-2111

東京本社

〒104-8307
東京都中央区京橋二丁目1番3号
京橋トラストタワー
TEL 03-3245-3111

(2023年12月31日時点)

取扱製品

機械

農業機械



建設機械



水・環境

パイプシステム



エンジン



電装機器



水処理システム



素形材



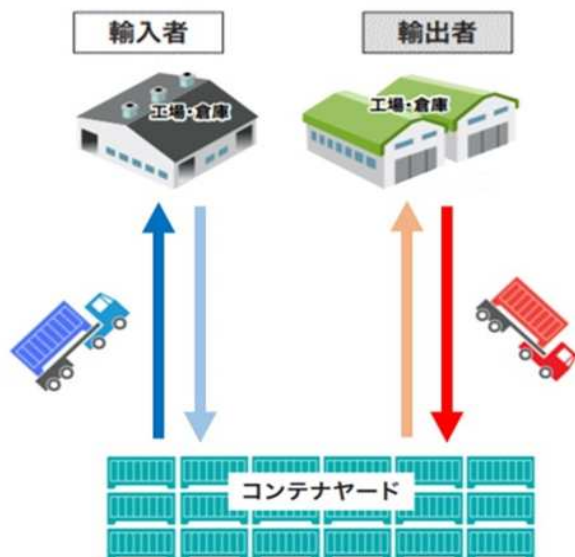
クボタグループでは、事業を通じた環境・社会課題の解決によって「豊かな社会と自然の循環にコミットする“命を支えるプラットフォーム”」をめざしています。

近年、日本のトラックドライバー不足は加速しており、また高齢化も進んでいる。COVID-19による各種影響その他也踏まえ、既にモノが運べない(非常に運び辛い)時代になっていると言える。

特に『背後に大消費地を抱える東京港は、首都圏の生活と産業を支える大きな役割を担っています。東京港と日本全国の間コンテナ貨物輸送の多くはトラックによってなされているため、物流の2024年問題を背景としたトラックの輸送力不足は東京港及び利用者にとって喫緊の課題です。』

(東京物流ビスHPより)

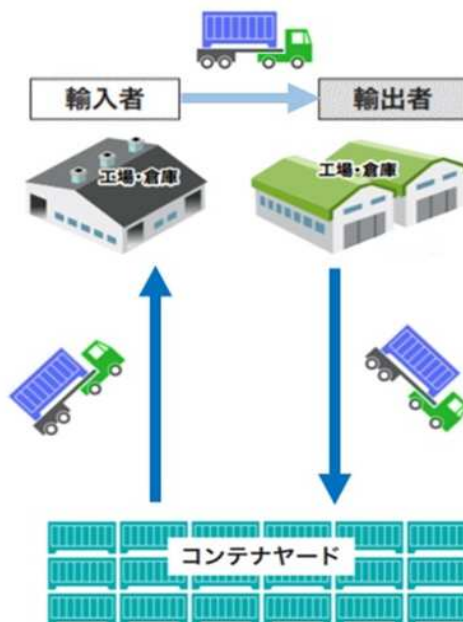
通常のドレージ手配



【問題点】

往復路いずれかが空回送になる・・・

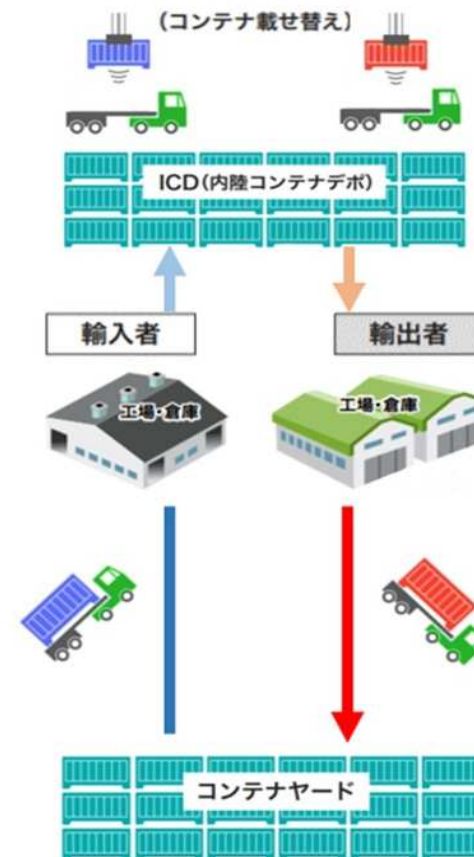
オン・シャーシ方式によるラウンドユース



【問題点】

輸入・輸出共に同船社・同コンテナサイズで
ある必要があるため、作業日程・コンテナの調
整が必須となり成立が難しい

ICDを活用したラウンドユース



- ✓ コンテナは後日、トラックは同日使える！
- ✓ スケジュール・コンテナの調整が簡単！
- ✓ 責任範囲が明確になる！

プロジェクト名：複数企業連携による東京港オフピーク輸送プロジェクト

令和6年7月31日に東京都にてプレスリリースされたモデル事業募集に対し、物流企業や荷主企業へ声掛けをして10社の複数協連携の連合を形成して応募

申込企業 ※コンソーシアムの 場合は代表企業	企業名	株式会社クボタ
	代表者役職・氏名	代表取締役社長・北尾裕一
	所在地	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
プロジェクトリーダー	氏名（ふりがな）	武山Alex義知（たけやまアレックスよしとも）
	企業名	株式会社クボタ
	部署・役職	物流統括部・担当部長
	電話番号	080-4069-8847
	E-mail	Yoshitomo.Takeyama@kubota.com

プロジェクト名：複数企業連携による東京港オフピーク輸送プロジェクト

実施体制

関係事業者		実施内容・役割
代表企業	株式会社クボタ	内陸デポ・東京港間を夜間オフピーク輸送で結ぶトライアル企画・貨物手配・連合統括
参加企業	本田技研工業株式会社	内陸デポ・東京港間を夜間オフピーク輸送で結ぶトライアル企画・貨物手配
参加企業	コマツ	内陸デポ・東京港間を夜間オフピーク輸送で結ぶトライアル企画・貨物手配
参加企業	三桜工業株式会社	内陸デポ・東京港間を夜間オフピーク輸送で結ぶトライアル企画・貨物手配
参加企業	白石カルシウム株式会社	内陸デポ・東京港間を夜間オフピーク輸送で結ぶトライアル企画・貨物手配
参加企業	株式会社鶴見製作所	内陸デポ・東京港間を夜間オフピーク輸送で結ぶトライアル企画・貨物手配
参加企業	吉田運送株式会社	内陸デポ・東京港間を夜間オフピーク輸送で結ぶトライアル企画・実輸送
参加企業	みなと運送株式会社	内陸デポ・東京港間を夜間オフピーク輸送で結ぶトライアル企画・実輸送
参加企業	鈴与株式会社	内陸デポ・東京港間を夜間オフピーク輸送で結ぶトライアル企画・実輸送
参加企業	株式会社日新	内陸デポ・東京港間を夜間オフピーク輸送で結ぶトライアル企画・実輸送

関係者との調整

クボタより複数の荷主企業および物流企業に連合協業の声掛けを行い、先ずは小規模な連合で推進開始すべく10社(当初10社以上であったが、各社諸事情により次回取組以降から参加希望との企業もあり)にて複数回の協議を行い、各荷主企業の貨物扱い拠点や各物流企業のデポ作業等の確認を行い、すべての連合が同じ情報を常に共有できる体制を整え、実際の連合輸送体制を整えるべく協議を継続した。また東京港デポとCY間のショートドレージに関しては連合企業間でのシャーシ共有の推進検討も行った。

プロジェクト名：複数企業連携による東京港オフピーク輸送プロジェクト

1. 背景

- 日本一のメガ港湾である東京港は、多様な要素により港湾エリアの混雑が未だ続いている。
- 混雑による、ドライバーの長時間拘束やアイドリング中のCO2排出という課題を抱えている。
- オフピークタイムを活用したこれらの解決を、単独ではなく、複数企業による連合協業により、実現したい。

2. 企画内容

- 混雑の少ない夜間を利用した、オフピーク輸送による内陸⇄東京港エリアの輸送効率化
- 港湾エリア⇄コンテナヤードの早朝～午前中輸送による混雑の回避
- 混雑回避=トラック待機時間の削減による、CO2排出量の削減
- 複数企業間でのシャーシ共有化による、シャーシ回転効率の向上

※シフト後輸送における輸送フロー図（輸出の場合）



3. 期待される効果

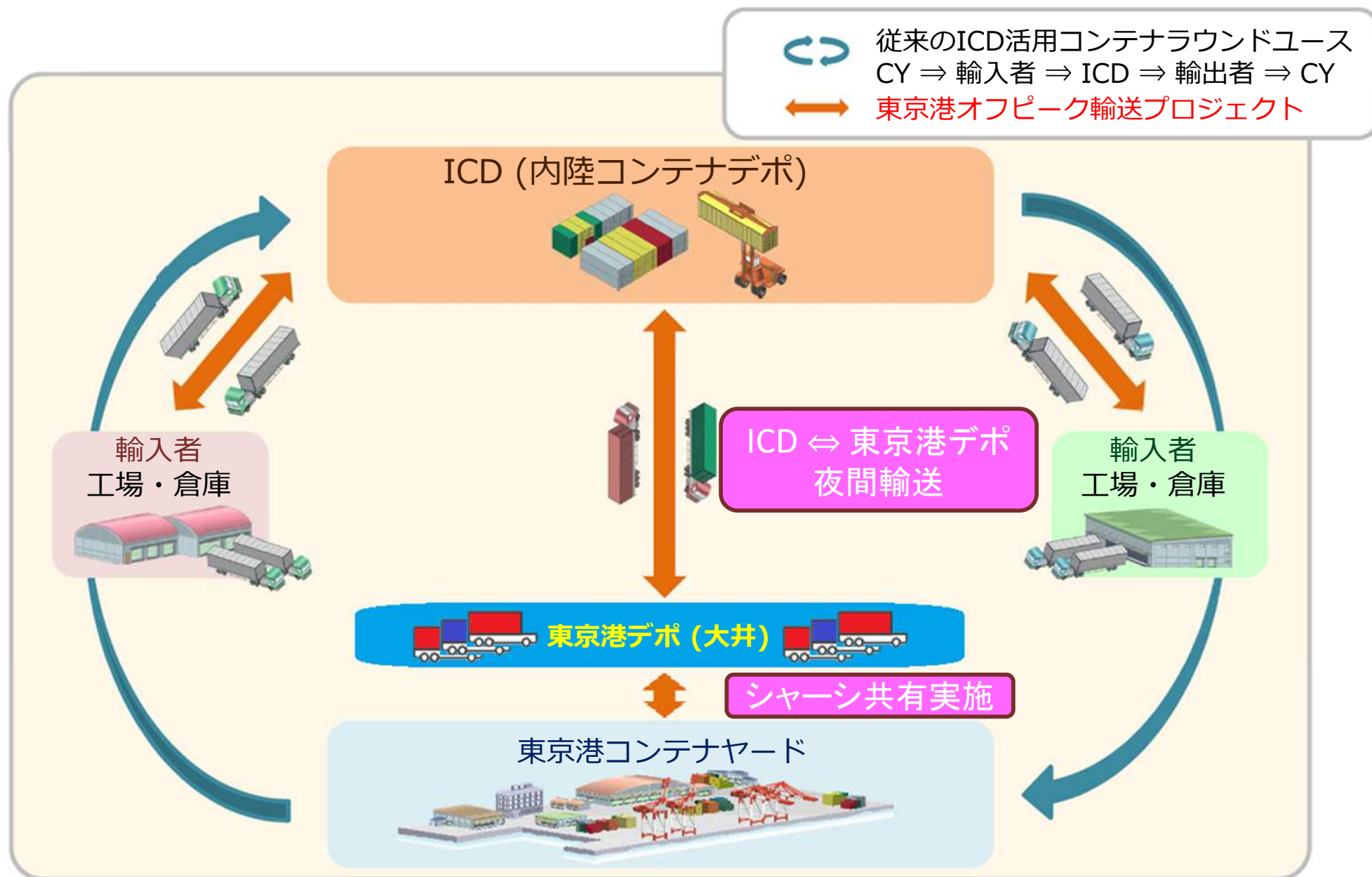
- 港湾エリアの混雑解消への貢献
- 運送会社、並びにドライバーの負担の軽減
- 車両効率の向上による、運送生産性の向上
- CO2排出の削減による、環境への貢献
- 安定的なコンテナ輸送能力の確保
- シャーシ共有の実現推進

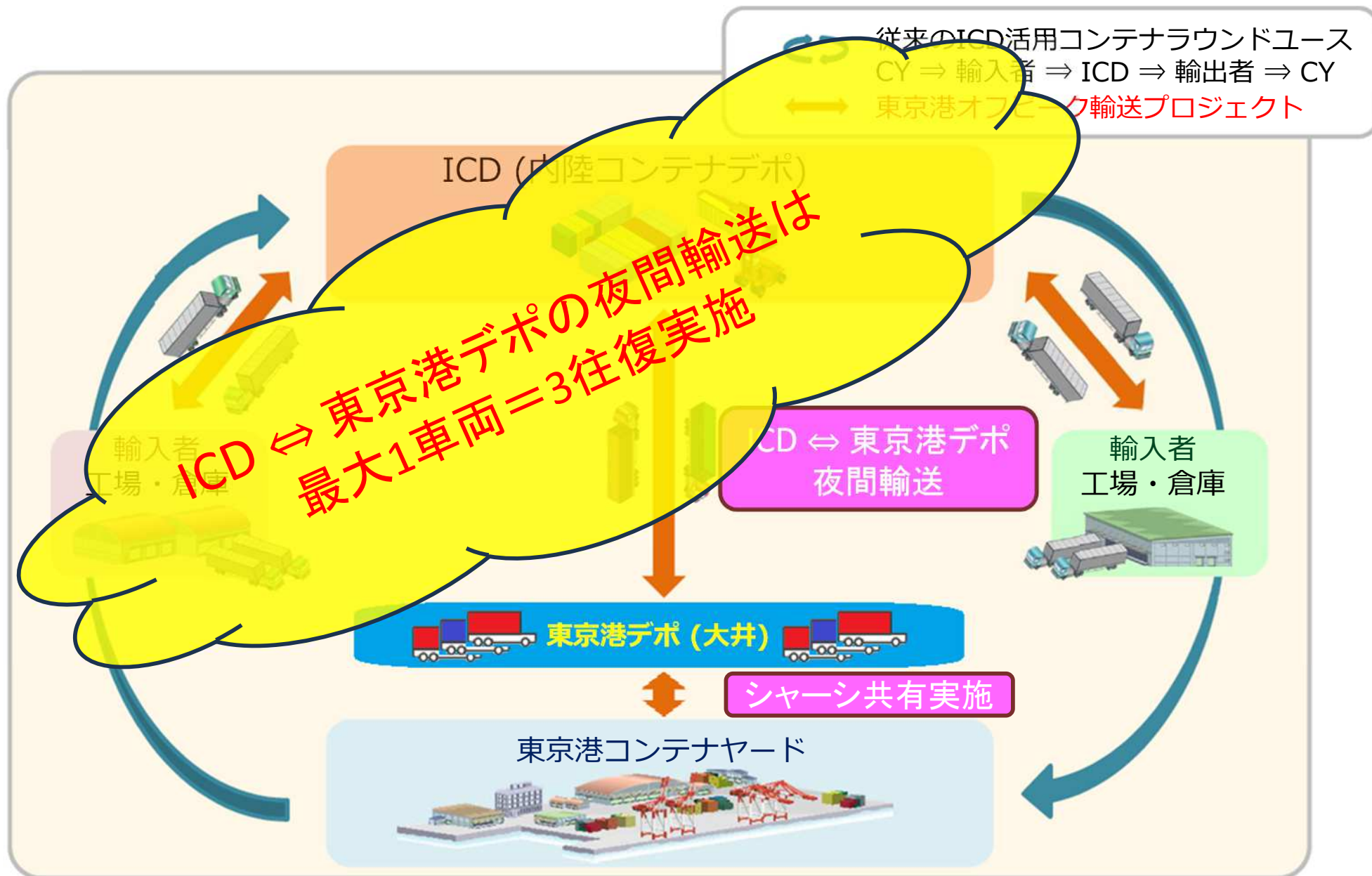
4. 実施体制

代表企業：株式会社クボタ	
荷主企業 ・ (株)クボタ ・ 本田技研工業(株) ・ コマツ ・ 三桜工業(株) ・ 白石カルシウム(株) ・ (株)鶴見製作所	物流企業 ・ 吉田運送(株) ・ みなと運送(株) ・ 鈴与(株) ・ (株)日新

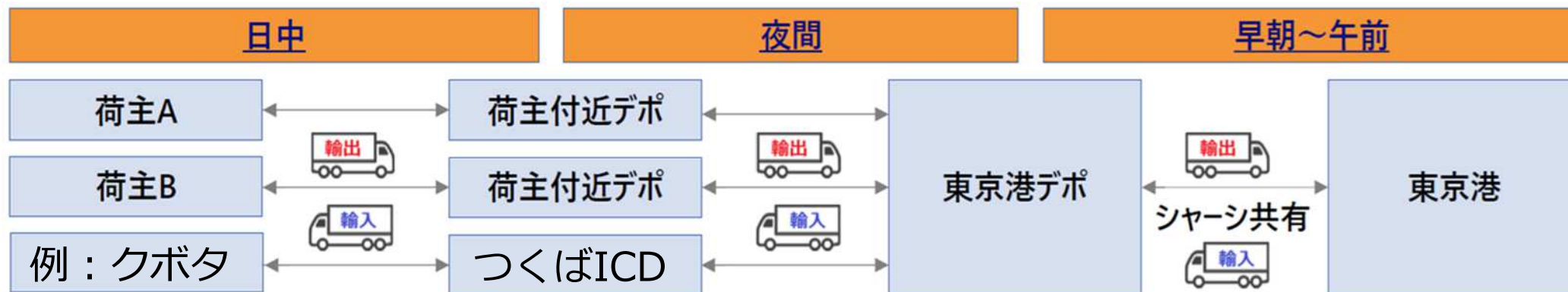
複数企業連携による東京港オフピーク輸送プロジェクト

For Earth, For Life
Kubota





トライアル結果（概要）



- ・実走期間：2024年11月18日(月)～29日(金)＝10日間
- ・合計輸送コンテナ本数：112本＝56往復
- ・東京港へのAM搬出入実施による待ち時間の短縮
- ・各内陸デポ⇔東京港デポの夜間輸送による待ち時間ゼロの実現
- ・夜間輸送による1車両＝3往復の実現＝1車両が6コンテナを輸送
- ・協力物流企業間にて協定を結び、シャーシ共有を実施
- ・全往復を実入り輸送＝ラウンドユースとした事によるCO2排出量削減
- ・複数の物流企業および荷主企業で連合を形成し協業できたことで、今後の拡大等展開の可能性

物流環境負荷軽減は企業1社単独で推進するよりも官民連携・民民連携にて推進する方が『1 + 1 = More than 2』になり効果も大きく、当然ながら推進力はとても大きなものになる。

簡単に考えられて簡単に実行できる事はもう既に実行されているはずであり、今後考えられるアイデアはハードルが高めであると考えられるが、ALL JAPANで推進すれば様々なアイデアや大きな推進力により必ず道は開かれると信じている。

今後も皆で協力してより良い物流環境を構築していきましょう！！

For Earth, For Life
Kubota

A family of four (two adults and two children) are running down a lush green grassy hill. In the background, a coastal town with colorful houses is built on a hillside overlooking a harbor with several boats. The sky is blue with light clouds.

ON YOUR SIDE

Thank you
ご視聴ありがとうございました。